

テレマカシーとは? ▶ Terima kasih=インドネシア語で感謝を表す言葉。在宅で看取らせていただいたある方は海外旅行が大好きでした。その方が最期にご家族に残された素敵な言葉を使わせていただきました。

明けまして おめでとうございます

今年は雪景色の静かなお正月でした。でも去年は自然災害、終りなき戦争、子どもたちの悲しい思いが目立った年でした。

幸せな世の中にと願うだけでは何も変わりません。できることから動いていこうと思っています。今年もどうぞよろしくお願い致します。

ひばりクリニック 高橋 昭彦



栃木県立中央公園(宇都宮市)

人工呼吸器をつけた子どもたち **続報**

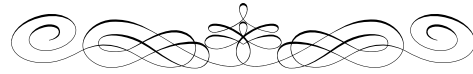
第2号で在宅で暮らす尊(たける)君の紹介をしましたところ、養護学校の先生や相談員(ソーシャルワーカー)など多くの方から反響をいただきました。お蔭様で尊君は自宅で初めてのクリスマスとお正月を元気に過ごしました。嬉しいニュースがありました。

<在宅でBCG接種を受けることができました>

この春から、結核予防のためのBCG接種は生後半年までしか受けられなくなります。3歳の尊君として

は是非とも接種したいのですが、外出が難しい尊君には大変なことでした。たまたま近くの市民センターで行われる集団接種の担当医が私だったこともあり、お母さんが保健師に相談したところ、まず保健所医師が家に行きツベルクリン反応を行い、2日後に私が訪問してBCGを接種することが実現しました。

子どもの予防接種を訪問で行うのは宇都宮市では初めてらしく、他の地域の見本にもなりそうです。宇都宮市の柔軟な対応に感謝!



手遅れにならないうちに子どもを助けたい

— 子どもの虐待：レントゲン写真からのSOS —



表に出ない子どもの虐待

子どもの虐待が増えてきています。平成15年度に全国の児童相談所に寄せられた相談処理件数は26,000件を超え、実際に表に出ない虐待はこれをはるかに上回るものと考えられています。

どうして表に出ないのか？ それは、家庭という密室で起こること、子どもがまだ言葉をもたない時期から起こること、さらに保護者である親が加害者であること、などが原因と言われています。

虐待には大きく分けて4つあります。①殴る、やけどを負わせるなどの身体的虐待、②「お前なんか生まれてこなければよかった」などと言う心理的虐待、③子どもの心身を非常に傷つける性的虐待、④食べ物を与えない、熱があるのに病院へ連れて行かないなどのネグレクト(育児放棄的虐待)がありますが、これは子どもの命にかかわる身体的虐待についての話です。

虐待は徐々にエスカレートする

小児科の集まりで、放射線科医として活躍する相原敏則さんの話を伺いました。放射線科医はレントゲン写真(単純エックス線写真)やCTなどの画像診断を専門に行う医師のことを言いますが、相原さんはレントゲン写真の診断を通じて虐待による死亡を減らそうと長年取り組んでいる数少ない専門家です。

医療機関に「骨が折れたかもしれない子ども」を親が

連れて来ます。子どもが社会に触れる数少ない機会です。親は、これは事故だと主張します。「転んだ」とか「2つ上の姉がいじめていた」と言うのです。外来では骨折した子どもをかわいがっているように見えることでしょ。寝返りもしない1ヵ月の子が、ベッドから勝手に落ちたという初歩的なウソならすぐに気が付くかもしれませんが、子どもの虐待を正しく早く診断するのは容易なことではありません。しかし虐待は徐々にエスカレートする傾向があるので、なるべく早く助けなければなりません。



虐待をまず疑い、レントゲン写真を撮る

ではどうするか。まず虐待を疑うこと。そしてレントゲン写真を撮り、骨折の有無を正しく診断することです。例えば、「偶発の事故」といわれて受診した子どもの腕の写真を撮ったところ骨折があり、それ以外の場所にも過去の骨折の跡が確認できます。レントゲン写真の良いところは、皮膚のあざや傷があとかたもなく消えてしまった後でも、骨折して治った跡が分かることです。つまり、新しい骨折以外に時間の経った骨折も見えるのです。

しかも、子どもの骨の折れ方には特徴があります。赤ん坊を何度も激しく揺さぶってできた骨折は普通とは違う折れ方をするので、良い写真と優れた診断医がいれば、虐待の可能性を指摘することもできるのです。

さらに、年齢も重要です。虐待を受けた子どもの骨折の80%は1歳に、90%は2歳未満で起こるので、2歳未満の子どもが外傷で来院した場合にはレントゲン写真

大きく分けて4つある子どもの虐待

- ① **身体的虐待** ▶ 体に外傷を与えたり生命に危険を及ぼす暴力行為
殴る、熱湯をかける、首を絞める、毒物を飲ませるなど。
- ② **心理的虐待** ▶ 暴言や差別的発言などで心理的な外傷を与えること
「お前なんか生まれてこなければよかった」「お前は何をしてもだめだ」など。
- ③ **性的虐待** ▶ 性的暴力、性的行為を強要すること
子どもへの性交を強要することに限らず、性器やポルノビデオを見せる、などもこれにあたります。
- ④ **ネグレクト** ▶ 育児の怠慢や保護の拒否により健康状態を損なう行為
食べ物を与えない、熱があるのに病院へ連れて行かない、家に閉じこめるなど。



を撮ることが大切なのです。

虐待を受けた子どもの半分は外から見ても分かりません。しかも幼い子どもは話ができませんし、加害者である親も自分がやったと語ることはありません。だから写真を撮らなければ何も見つからないのです。

相原さんは、虐待を疑ったら、子どもの安全を確保した上で、怪我をした場所だけでなく全身の骨の写真を撮るように勧めます。発生時期の異なる多発骨折があったり、虐待に特徴的といわれる骨の端の骨折を見たら、それは診断的価値があります。これは子どもからのSOSをキャッチしたことになるのです。

4人に1人は再び虐待を受けて病院へ

もちろん虐待の診断は、レントゲンを撮ればすべてが分かるというほど簡単なものではありません。子どもの骨格を的確に撮影する技術や、骨折を診断できる医師の目も必要です。虐待されていても骨折がないこともありますから、骨折がないから虐待がないとも言い切れません。子どもの虐待の診断とその後の対応は、親子の様子を見た外来の小児科医や看護師などのスタッフ、放射線科医、児童相談所や保健所スタッフがやり取りしながらチームで取り組んでいかねばならないのです。

虐待による死亡原因の第1位は脳の障害、次いで内臓破裂などの胸腹部の臓器損傷が第2位です。しかし、死亡したり、頭などに重度の障害を受けて、この先ずっと介護が必要な状態になってからでは遅いのです。

実際に、医療機関に受診したときは虐待が確かではなかったため、そのまま子どもを家に帰し、何ヵ月か後に重い脳挫傷で再入院したことがありました。このとき虐待と分かっても、その子どもの人生は一生ベッドの上になってしまいます。一度虐待を受けて医療機関を受診した子どもを、少し様子を見ましょとそのまま帰すと、4人に1人は再び虐待を受けて医療機関へ行き、20人に1人は虐待によって死亡するというデータもあります。

「多くは骨折だけでは死なない。確かにそうでしょう。しかしそれは死の前兆と捉えるべきです」と相原さん。

子どもの骨折から虐待の可能性を指摘できる医師はまだ少なく、多くの放射線科医はMRIやCTなどの大掛かりで大人向けの検査を得意としています。一枚の写真から子どものSOSを感じて動く熱い医師がいることに私は深い感動を覚えました。

あいほらとしのり
【相原敏則さん】

18年間埼玉県立小児医療センターで放射線科医師として活躍。2004年10月、自治医科大学とちぎ子ども医療センター教授(専門は放射線診断学)に就任。

メモ

これまでは虐待が明らかな場合に限り通告の義務がりましたが、平成16年10月、児童虐待防止法が改正され「虐待を受けたと思われる」場合についても児童相談所・福祉事務所・市町村へ通告することが義務づけられました。

昼寝で元気に！

私は疲れて気が落ちているなと思うときは、時間を見つけて休むようにしています。15分ほど仮眠をとるだけで気が充実し、アイデアが湧いたり、いろいろな相談を受けるときの聴く力にもなります。

訪問診療では多いと1日50kmも走ることがあり、安全運転を心がけてはいますが、途中で疲れて眠くなるときもあります。そんなときは通りすがりの公園の駐車場で少し休みます。平日の公園は営業マンの憩いの場。今日

もひと休みしている仲間たちの車が何台かあります。公園のトイレも外回りの人間にとってはありがたいものです。やがてリフレッシュして運転再開、笑顔で訪問先の玄関に立ちます。



疲れたら公園でひと休みして、リフレッシュ！

*

昼寝をすることに罪悪感を感じたこともありますが、以前、夕方遅く訪れたお宅のご家族から「疲れた顔をしている」と言われてしまい、これではいけないと思いました。こちらが元気な顔をしていないと相手の方に気をつわせてしまい相談したいこともできなくなってしまうからです。

お仕事でお疲れの方も多いと思います。そんなときは、時間をつくって昼寝をしましょう。仕事の効率も上がりやすし、間違いやストレスも減ります。それは自分のためだけでなく、周りの人のためにもなると信じています。

開催のお知らせ

第9回 在宅ケアネットワーク・栃木

日時 平成17年2月11日(金) 10時～16時

会場 自治医科大学
地域医療情報研修センター 大講堂

テーマ 「食べること・生きること」

*詳細は在宅ケアネットワーク・栃木まで
0282-29-1050 (FAX・留守電話)
<http://www.lancenet.or.jp/carenet/>

ご協力ありがとうございました

♥ 新潟中越地震のボランティア活動支援金については、クリニックご利用者など多数の方から温かいご支援をいただきました。とちぎボランティアネットワークを通じて、**総額77,095円**を現地のボランティア支援のためにお渡しいたしました。お蔭様で現地に常設した「災害ボランティアオールとちぎ」を拠点に多くのボランティアが支援活動を行うことができました。ご協力ありがとうございました。<(_)_>

「ひばりクリニック」のご案内

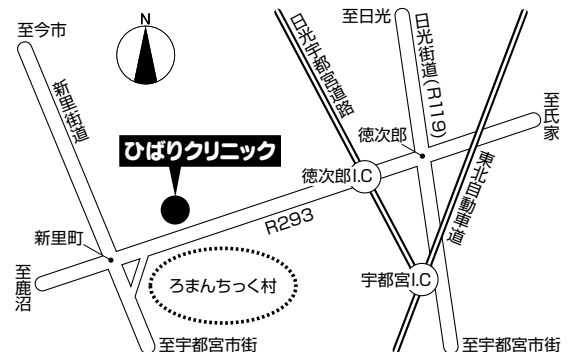
● 診療時間 ●

時間	日	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	(休)	○	○	(休)	○	訪問診療	○
午後 (在宅医療)	(診)	訪問	訪問	(診)	訪問		訪問

● ひばりクリニックの運営理念 ●

- 1) 在宅で過ごされるご利用者に出前の医療を提供すること
- 2) 子どもからお年寄りまで診る家庭医の機能を提供すること
- 3) 障害児・者やお年寄りの生活を支える市民活動を支援すること

栃木県宇都宮市の北西部、新里町(にっさとまち)にある、ログハウス風の小さな診療所です。



〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙357-14
TEL 028-665-8890 FAX 028-665-8899
E-mail hibari-clinic-01@theia.ocn.ne.jp

この通信は、子どもから大人まで、障害のある人もない人もどんな人も社会から排除されることなく、地域で一緒に生きていける世の中を目指して、ひばりクリニックが企画・編集しております。この通信についてのご意見・ご感想はひばりクリニックまでお寄せください。